

福島「復興」と被災者の思い

吉田千亜さんから聞く ふくしまの声

原発事故から12年目に入った今、福島はどうなっているのでしょうか。コロナに気を取られ、私たちの意識から薄れつつあるのではないのでしょうか。オリンピックを機に「復興」をアピールした政府ですが、未だに避難生活をおくる人々が38000人もいます。また、故郷へ帰っても以前の生活に戻ったとは言えない人々も多くいます。

そんな福島の人々の声をていねいに拾い続けているのが、フリーライターの吉田千亜さんです。今回、茅ヶ崎にお迎えして「ふくしまの声」をお話していただこうと思います。

また、国家プロジェクトとして「福島イノベーション・コースト構想」が復興予算で進められていますが、どんなものなのでしょうか。そのめざすものについてもお聞きしたいと思います。

皆様のご参加をお待ちしております。

(マスクの着用にご協力ください)

2022年 11月12日 (土)

14:00~16:00 (開場 13:30)

資料代 500円

茅ヶ崎市民文化会館4F 大会議室

共催：チームみつばち / NPO 法人子ども達に未来を in 湘南

問い合わせ・申し込み先：電話 090-1425-5472

メール teammitsubachi@yahoo.co.jp



プロフィール

吉田千亜

(よしだ・ちあ)

1977年生まれ。フリーライター。

原発事故後より、被害を受けた人々の取材を続ける。

著書に『ルポ母子避難 (岩波新書)』『その後の福島 (人文書院)』『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11 (岩波書店)』。共著に『原発避難白書 (人文書院)』。

『孤塁』にて、第42回講談社本田靖春ノンフィクション賞(2020年)、第63回日本ジャーナリスト会議賞(2020年)、日隅一雄・情報流通促進賞2020大賞を受賞。

